

東北の未来像を議論

東京で被災3県高校生ら

【東京支社】ビヨンドトウモロロー東北未来リーダーズサミット(一般財団法人教育支

援グローバル基金主催)は14日まで3日間、岩手、宮城、福島



グループで話し合った東北の未来のための「施策」について発表する藤原果奈さん(左から2人目)ら=東京・丸の内

県の高校生、大学生ら計75人が、被災体験を共有する語りや、産業界のトップリーダーらとの交流を通じて東北地方の未来像を考え、具体策を提言した。本県からは高校10校の生徒15人と、県内高校出身の大学生8人が参加。高校生は10班に分かれ、学生や支援企業・団体幹部らから助言を受けながら被災地の現状や課題、復興の在り方を話し合った。最終日は提言発表会があり、津波で母親を亡くした宮古商高3年の山根りんさん、家族全員が犠牲になりビヨンドトウモロローの事業で米国ミシガン州に留学中の小川彩加さん(18)＝釜石市箱崎町出身＝ら4人が代表でス

ピーチし、震災当時のつらい思いや現在の夢を語った。

各班を政党に見立てて、アントレプレナーシップ(起業家精神)、安全なまちづくり、観光・地域活性化の3項目の「未来マニフェスト」を発表し合い、投票で優劣を競った。

「再考して最高の再興をしましょう」をキャッチフレーズに掲げた「日本SAIKO党」が防災意識を高める高校生新聞発行を政策としたり、「大きな希望東北党」が全国から児童生徒が被災地を訪れて高齢者らと交流する事業を発表するなど、高校生ならではの提言が相次いだ。

山田高2年の藤原果奈さんは「学校では震災の話をしにくい面もあるのですが、いろいろな意見を聞くいい機会になった。自分もできることを考えていきたい」と仲間との交流に刺激を受けた様子。米国生活が「楽しい」と笑顔を見せた小川さんは「つらい体験をばねとするような話し合いができた」と3日間を総括した。